

調査結果

分野	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア
文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で市民文化祭で作品展示の負担が大きい。 ・おおりのホールと会議室を同時利用すると駐車場の不足があるので、産官が連携して駐車場を活用する。 ・同世代同士の関わりが少ない。子どもが少なく、活動の後継者の勧誘が難しい。 ・スポーツや国際交流など、横の組織との協力体制づくり、組織づくりが大事である。 ・音楽団体のチャリムの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達で垣根を作らずに人を受け入れる団体になる。オープンカレッジ ・笹間神楽、川越太鼓、茶娘道中、外から人を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点在する資源をつなげる。 ・いろんな団体を入れた組織が必要 盛り上がりの意識を持ってもらう いろんなアクセスポイントができる
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐に渡るため、人と人のとつながりが希薄になっている。でも近所づきあいがないと孤立してしまう。少しずつ広がっていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しく教えない。自分がやりたいことをやる。そのために市が情報提供をする。 ・公民館が、絵を展示しやすい場所になっていない。(天井が低い、空調、照明、セキュリティ) ・諏訪原城、河原町、アピールするなら整備する。 ・牧之原公園は景色がきれいだが駐車場がない。 ・歴史的ポイントは、その分野の人に担当してもらう。素人がやるとだめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源がバラバラ。まとまるといい。 ・連台越しも、もっと大体的にやる。金谷・島田～石畳～日坂の流れがわかるように。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく入ってくる人が少ない。平日昼の開催であるため。 ・学習の内容をもっと充実させたい。座学より体験が好まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつりで、障害者の就労施設の出店を始めた。障害者も参加したいと思うようにしたい。 ・「金谷の良いところ再発見」で地域資源を出して、周遊コースを作成したため、ホームページに公表してイベントを実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少ないコミュニティバスも活用した地域資源をめぐる周遊コースを作った。新茶の時期に周るイベントがしたい。
文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・官と民のすみ分け、協力する体制を作る。島田が好きな人をサポートする体制を作る。横糸を通す。文化は、今までの行政の枠には馴染まない。 ・運営側の人材確保。イベントや体験に参加してもらうことで確保していきたい。 ・農業に結びついた行事の文化がこのままではなくなってしまう。柿の木責め、沢めし等 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加、参画できる窓口を広くする。 ・体験やイベントで、自然に感じる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DMOと協力しての取り組みを始めている。 ・華美なものを出さず、季節に寄り添った笹間の素朴な日常の暮らしの中に「わびさび」の心を見出す。そこにアートの視点を加える。
文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴い、練習道場の移転をしなければならないが、音が大きいため、移転場所を探している。 ・練習場所が狭いため、親と子で同時に練習できるようにしたい。 ・レギュラーメンバーが少ない。日曜日に仕事がある人がいる。お茶の時期は出れない人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りに対してあまり乗り気がない。コンサートにあまり行かない。茶まつりは多いが、私達のコンサートにはあまり来てくれない。夢づくり会館が満席になったことがない。情報発信の仕方が悪いのかもしれないが。 ・見る側でなく参加する側になる。箱で静かに見るより、野外の参加型のイベントの方が集客がある。産業祭では外の露店の方が人が多い。 ・子どもが出れば、親が見に来る。 ・昔話が埋もれている資源としてあるので、語り部を育てる。また旧家を保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は、よさこいや阿波踊りなどとコラボしている。そういうことは増えている。 ・牧之原公園で、1～2回、昔と同じように正月に太鼓の奪い合いをやったが、市長が変わってやらなくなった。続けていれば良かったと思うが、集まる場所であれば出来ない。 ・イベントで、参加者が太鼓を叩いてみるようなことをやるが、日本人は恥ずかしがって出てこない。積極性が少ない。外国人は踊りだす。高校の生徒にも教えているが、積極性がない。小学校にも行っていたが、校長先生が変わると方針が変わるので、今は行っていない。
文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前スペース等を使ったライブ活動。もっとふれあえる場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人の接点をどう作るか。音楽は人を引きつける力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの輪が呼び合う、互いが引っかかるきっかけが必要である。 ・教育と関連付けるなら、行政が橋渡ししてくれれば幼稚園や保育園、小学校、どこでも演奏することはできる。
文化芸術 (農村文化)	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事柄、来れない若者も多く、集まってもメンバーが固定化してしまう。 ・文化祭に呼ばれるのは中学生で、本元には声がかからないので、たまには声をかけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼されれば、どこでも舞を披露することができる。養護施設、老人ホームにも行きたい。敬老会では涙を流す人もいた。地域に貢献したいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山を利用したトレッキングみたいなもの。石上城や無双連山の山城などをつなげて、人が来てくれるといい。 ・昔の街道にある地藏めぐり ・イベントに神楽を呼んでいただくこと。地場産品もPRと一緒にやるのもよい。
文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・夏樹静子氏が他界したため、これからどのようにしていくか思案している。夫や息子とは現在も交流が続いている。 ・全国にファンがいると思うが、特に宣伝等はしていない。したほうがいいと思うが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな所に出向いて行って、いろいろなことを知ること。 ・チャリム21は山の上なので行きにくい。むしろ市街地(博物館等)の方が行きやすい。 ・年をとってからあまり行かなくなった人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山にも目を向けてほしい。まちの文化は動、山の文化は静、それがバランスを取れていなければならない。 ・最近では若い夫婦が空き家に住み始めている。地元の人とも仲良くやっている。 ・食文化は、地域交流センターに来る人の要望もあって、そばなどこの食材で作ったものが食べられる。
文化芸術 (製材業)	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後に植えた樹木は出荷時期が来ている。これを使わなければ次の木を植えることはできない。公共施設やまちの景観形成として、もっと地元の木材を使ってもらいたい。補助金制度もあるが、施主に情報が伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の学習講座のテキストとして冊子を作った。昔の写真を使っているが、まだ当時の写真が眠っているかもしれない。そういったものを集めるのも面白いかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島田は観光資源が多い。木の文化があるまち。木の建物を増やしてほしい。大井川鉄道、蓬萊橋など木に絡むものがある。そこから河原町へ行く流れのようなものを作ったり、木の扉で修景するなど、木を取り入れたまちづくりをしてほしい。
文化芸術(メディア芸術)	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の文化離れを感じる。情報機器が身近にある。劇場などに足を運ぶことがない。電源を入れればすぐ楽に簡単にできる。一方で、簡単にできるから親しくなっているとも言える。 ・小学生にプログラミングが流行しているが、文化芸術でなくシステムエンジニアの授業になる。これからはこれと芸術文化系のアーティストとの二刀流にならないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリパラや万博で、大きく変わる可能性がある。機械と文化が一緒になる時代が来る。心が通じていない、希薄になることは危惧している。 ・活動が学内で完結してしまう。学生にポスターやチラシを作らせると、学生のレベルも上がり、文化に前向きになっていく。コンテストだけでなく、顧客と向き合うため人と関わり合うことになる。そうすると、目標ができる。学生に責任を持たせる。これが進路にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTが県下で1番進んでいる。幼稚園や小学生も中学生も入れてやれば面白いし、産業まつりで披露したり、体育館で産業フェアにして親子で楽しむ。 ・eスポーツはICTコンソーシアムの力がないとできない。おおりのシアターで全国とつなぐ。よそがやらないことを先行してやる。 ・大井川鉄道の街歩きツールでキャラが出てくるようなもの。鉄道マニア、鉄道写真と文化につなげる。産業とつながらないと、文化課だけでは荷が重い。 ・高齢者も扱いやすいコンテンツができれば、多世代の交流に使え。若者に開発させたい。 ・若者が文化施設にいかない。もっと市民が文化で活躍できる場をつくる。楽器を演奏はできないが、コンサートのもぎりや、ドアの案内係などに携わる。仕事をリタイヤした人がイベントにスタッフとして携わる。

調査結果

分野	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア
文化芸術 (食文化)	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの高齢化と固定化 ・食品安全法が厳しくなっている。イベントのときにお米を外で炊いて食べられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を育てるには場所が必要。興味を引く第一段階がない。静岡市内にはそういったものがたくさんあるが、島田市は少ない。他の文化を知ることが、自国の文化を知ることになる。 ・お茶はもっと使い方があると思う。調べて発表できるようにしておくこと。案外知らないことが多い。小さい祭りももっと見直した方がいい。掘り下げると面白いものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単発のイベントではなく、継続できる事業計画を立てること ・文化活動は金を生まないが、企業や地域の品格を上げることになる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の減少 ・活動資金の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業まつり 市民が来るイベント ・マチナカシネマ(屋外シアター)、NPOが斬新なアイデアを出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全より活用すること ・ロケ地めぐりバスツアーを考えたが距離が足りなかった。さわやかウォーキングでロケ地を見る企画は好評だった。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・事業継承が上手くいかない→大型店に客を取られる→買い物難民の発生 ・空港が出来てもメリットはない。 ・建設や製造業の需要がある。 ・お茶の勝ち組はいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい環境、島田市から出て気づく住みよと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・合併により横のつながりが出来た。異業種交流会 情報発信が課題
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数の減少 ・任意団体であるため自主財源が確保できない。NPO化を検討している。 ・スポーツ少年団も参加する子どもが少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民スポーツ祭は自治会対抗であるため、地域のつながりをつくっている。 ・島田市に転入した人から問合せがある。ホームページで団体が検索できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川根温泉で観光業者にPRしてもらう。 ・各地から大会に参加した人に、パンフにお茶パックを付けてPRした。しまだマラソンでは宿泊者が市内の指定の飲み屋で焼酎1杯無料等のサービスをしている。 ・小さい資源を結んで滞在時間を長くする工夫が必要 ・修学旅行生が泊まった旅館にお茶パックを配ってPRしている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・環境だと堅苦しいので、遊びを兼ねたイベントを開催している。できるだけ楽しくできるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源をまとめたパンフレット等があるが、中途半端になっている。これをつなげるといいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的な大きな柱が足りない。おもてなしの気持ち。 ・資源もバラバラになっている。 ・市民に任せてみる。任されたら嬉しいし、達成感がある。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を支援する得意ボランティア(無償)からの資金援助の依頼が増えている。 ・高齢者中心から、子育て中の母親など、誰でも集まれる場所にしたい。ちょっと出かける間に子どもを見てもらえるような。 ・今いる方の体が弱くなった時に入れ代わりが上手くいくか。新しい人が入って来ることができるか。 ・お母さんの団体は子どもの成長とともに人が入れ替わってしまう。 ・他団体とのつながりがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持っていない方に、地域の課題や必要性を知ってもらい、関心を持つ入口に立つてもらい、関心のない人達に目に留めてもらうこと。広報紙は関心ある人しか見ない。 ・お互いに顔が見える関係を作ること ・小学生と駄菓子屋のおじちゃんて顔が見える関係が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の観光地をめぐるツアー(県外から来た人に「島田は立派な観光地だ」と言われる。見落としがちな地域の良さを知ることもいい。)
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・道路等のバリアフリー整備。車イスでは5ミリの段差もこわい。(でも目の見えない人には段差が必要だったりするので難しい面もある) ・島田駅中心のイベントに参加する時、駐車場代がかかって大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・足を運んでみたら、両方の世代が楽しめるものがあるということ。 ・子どもと高齢者は、体力の無いもの同士、ペースが似ている。「ゆっくりやろうよ」ということは共通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の修学旅行の誘致(川根温泉ホテルはバリアフリーで、ミキサー食など対応可能、SLなど見るべき資源も多いし、人があたたかい。SLの音、煙、大井川の風、子どもが五感で感じられる資源がたくさんあるのでびったりの場所) ・Wac藤枝は、特別支援学校卒業生のアートと地域社会、企業、ショップをつないでいる。障害者のアートは枠にとらわれない自由な作品である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。類似した活動では後継者問題などが話題となるが、自分がやりたいだけ活動して、できなくなればやめればよい。がむしやらに続けたいわけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術の分野が多く、それぞれ人の興味関心は違う。いろいろなものに親しめるまとまった窓口があって、コーディネーターがいて、興味関心を手探りできる場があるとよい。ボランティアしたい人が来て、気軽に体験できる場があるとよい。はんこづくりは気軽に誰でも参加できる。スタンプを押すことでストレス解消になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街等のやる気が大事。地域の人達が何をやりたいか。その立ち上げをしないと行政は動かない。最初は小さいかもしれないが少しずつ大きくなっていく。押し付けでない皆がやりたいものでないと継続しない。行政と民間が一体となって取り組む必要がある。 ・島田市民はイベントが大好きだが継続していかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の町を知るということを小さい頃から植え付けると、大人になって故郷をPRする材料になる。 ・川で分断されていたため地域の認識が強い。 ・子どもが参加すれば大人も参加する。 ・高齢者や障害者が参加しやすいちょっとした工夫を行う。 ・面白いもの、楽しいものでなければ参加しない。 ・島田の逸品、しまだ市民遺産の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地で行っている祭りのツアーを組んでプレゼンする。田舎の素朴な祭りには、住民との交流がある。
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・おおろりは庁舎の一部になっていて管理が難しい面がある。 ・元気市は、商店街も若年に人は出てくれない。また冬は客が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代の交流。けん玉を教える。子育て講演会。 ・市民がボランティアで運営に携わる取組ができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧島田市は寄席などの来場が多く、伝統文化への関心が高く感じる。 ・太鼓の団体が多い。 ・まちなかシネマを気の合う人達がやっている。 ・まちづくり、文化、観光等で行政が連携 ・中央公園などオープンスペースを活用する
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・無人駅アートは収益を生まないが、住んでいる人とアーティストの交流が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人達を受け入れてくれる土壌づくりとしてのアートを考えている。生活の中に文化芸術を落とし込んでいくという発想。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大井川と住んでいる人がどのように関わっているかを捉える。
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な意見交換会の開催による、各店の参加意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・この事に真剣に取り組む熱意のある人材の確保。その人材が無理なく続けられる金銭や労力へのバックアップやフォロー。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何をやるのか」よりも「誰がやるのか」が大事だと思う。

調査結果

分野	課題	市民が文化芸術に親しむには	文化芸術の振興や地域活性化のアイデア
まちづくり	・キャンドルナイトは火を使うため、やりたくても断られることがある。行政の課によっても対応が異なるため、もっとサポートがあるとよい。	・若者が求めているものが何かを把握すること。いろいろな状況の人に意見を聞くこと。若い世代と大人をつなぐ窓口の設置。	・補助金のことを知らない人が多いため情報があるとよい。また補助金の条件が緩和されるとよい。市役所が相談しやすい場になってほしい。
まちづくり	・デザイナーやビジネスオーナーなどコンテンツを担う人材を同時に育てる。 ・無人駅の芸術祭で出展する木村氏は、パブリックアーティストで、コミュニケーションをアートする、物を作るだけでなく関係性を作るアート。町のストーリーをアートする。	・演劇でコミュニケーションを取るなど、文化芸術を教育に落とし込んでいく。参加するアプローチは、県のSPACからのアプローチがあってもいい。	・沼津市のように、行政との協力体制ができること。 ・法多山のお化け屋敷のお化けは、SPACの役者さんで、新しい発想で力を入れている。 ・無人駅の芸術祭のパンフレットで、紹介されているお店には、長く住んでいる私も知らない店があった。意外と知らない。島田の良さに気づく、ここで暮らす人に焦点を当てた、ここで暮らす楽しみを作る雑誌を作りたい。
まちづくり	・メンバーが固定化しているので新しく入りにくいが、川根ラブズファクトリー(小学校の子どものお父さん達)が入ってくれるようになり、世代交代して中心になってくれると思う。	・今までは来て見るだけ。体験できる文化ができれば、NPOがこれをプロデュースできれば。 ・資源がもつ魅力は、島田市以外の人に見てもらいたい。いいところ再発見。	・空き家バンク事業を委託しているが、いろいろ難しい。かりてもらえない現状がある。売りこめば来てくれるかも。売りこみは不得手な人が多い。
まちづくり	・地元の人が街道の価値を知らない。知名度が上がり、プライドが生まれれば、歴史も学び子どもにも伝えたい。 ・文化財であるため、イベント等も制約があってやりたいことができない。 ・空港があるが、島田市に観光で泊まる人がいない。通過してしまう。受け入れの体制も出来ていない。地元の人でも観光地に行けないので、点と線をつなぐことが出来たらよい。	・藤枝はおんぼくができるくらいのもともまりがあるが、島田はみんな自由にやりすぎてまとまらないので、島田おんぼくはあり得ない。まとまらないが仲は良い。材料となる資源はたくさんあるので、それを丁寧に紡ぐセンスのある人がいれば。自分からは行かない「ようこそ文化」で、来たらすごくもてなす。職人集団なので、営業が下手。営業部長が必要	・古いものだけでなく、新しいものだけでなく、古いものを今のフィルターを通して再解釈して作り直したらどうか。自分たちが面白く、楽しくないと。疲れた顔をしてやるものではない。
まちづくり	・スタッフは少ないが、増やしすぎても主旨が変わってしまうのでこれでいい。 ・他地域でやりたい人が見学に来るが、自治会の協力を得るのは難しいようだ。	・自分のまちがどんなに好きかということ。何を通じて好きと感じているかは人それぞれ。	・好きなものは発信するために何かしたいと思うはず。 ・お母さんはキーワード。地産地消など生活文化に対する関心が高い。
地域安全	・人材が不足している。	・小さい頃から文化芸術に親しみ素養を高める。	・川留め文化
その他(古民家活用)	・外国人よりも日本人の方がマナーが悪い場合もある。	・東京、名古屋、大阪の客が意外に多い。集まり安い中間地点に位置する。 ・地区毎に資源をみつける担当がいて困り状につながるとうい。 ・川留めで待つ人を受け入れてきた。外からの人を受け入れることができる。 ・外国人はワインの産地と背景を楽しむ。古民家のストーリーを学生が動画にして空き家バンクで紹介する。お茶も大井川とからめたストーリーを出す。 ・文化芸術は実は自分のまわりにたくさんあることを知らない人が多い。フランスみたいに、地域の人が地域のよいものを紹介するしくみがあるといい。	・公共とつながっていないイベントは、チラシを置かせてもらえない。市が応援しているという表明をもらうだけでもちがう。 ・浜松のように島田市もシェアリングの考えを導入してもらえれば。海外のバックパッカーが来た時に、労働するから泊めるとか使っていない車を提供するとか、眠っている資源を活用することで活気が出ると思う。
その他(ラジオ放送)	・売り上げの向上	・文化芸術に対する行政の理解	・流行は作っている人がいるので、一巡してくる。アンテナを高くして、お茶、着物等を活かす。 ・バラは生産量も多く活用しやすいのもっとアピールしてはどうか。 ・ノスタルジックは蓬莱橋などの観光 ・茶畑、大井川、富士山が見える風景に、東京から来た人がとても感動していた。私達には見慣れた風景だが。